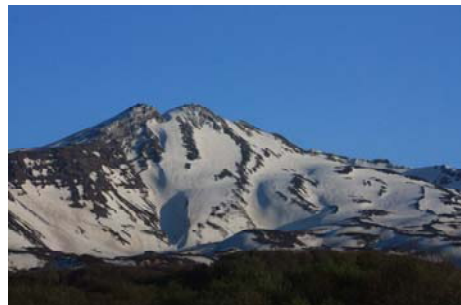


ふるさと

鳥海山は私にとってふるさとの山である。

私が高校二年の時のクラスに、象潟中出身の友人がいた。ある日、象潟町側から見る鳥海山と鳥海町側から見る鳥海山とで、どちらがよりかっこいいかということになった。



象潟町側から見える鳥海山は、山頂部分が新山と七高山の二つの頂からなる双耳峰である。中央部の急峻な斜面が男性的な印象を与える。一方、鳥海町側からは新山は見え、七高山だけを頂にする端正な円錐形であり、出羽富士という名にふさわしい形状である。



その友人は象潟側の鳥海山がすばらいいと主張し、鳥海町出身の私は、幼い頃から慣れ親しんだ形の鳥海山のすばらしさを譲らなかつた。後日、お互いの鳥海山の写真を持ち寄って見せあったが、相手の鳥海山に違和感を覚えるだけであった。他の級友たちに意見を求めても、意見は割れ、両方の写真に違和感を訴える級友さえいた。誰もが、ふるさとの山として鳥海山を持っていた。

昨年の暮れのことである。進路の内定したある三年生が、校長室に合格の報告にきてくれた。将来の抱負などについていろいろと語った後で、本荘北中出身だというその生徒に、こんな質問を試してみた。「このふるさとの中で、あなたが誇りに思っているものは何かありますか。」するとすぐにこう答えてくれた。「はい、新山公園から見える子吉川と鳥海山です。」目が覚めるような感動の一言だった。

みなさんのそれぞれの心の中に、ふるさとと結びつく風景や文化があると思う。海・森・田畑・駅・神社・運動場・学校・お祭り・食べ物など。今はそれを当然のものと捉えているかもしれない。しかし、これから時間が経つにつれて、それは貴重な財産となる。まだその風景や文化が見つからない人は、ちょっとだけ立ち止まって見回して欲しい。あなたの周りにきっとある。

ふるさとの良い点を自覚し、ふるさとを誇り感じている者は幸いである。住むところが県外であれ、地元であれ、ふるさとを肯定的に捉えるとき、そこから自信が生まれ、きっといい仕事ができる。なぜなら、ふるさとはあなた自身であるからだ。

